

大将 & 大将-2

- 大将-2は大将より果長やや短い
- 夏の猛暑に強い
- 葉ヤケ、芯ヤケしにくい
- 初期より超多収
- 果形安定
- 褐斑病に強い



OS 交配 大将&大将-2 特性と栽培ポイント

【特性】 早生で初期から多収となりツヤツヤとした品位の高い美形果、夏の猛暑にも強く作り易く葉ヤケしにくい、茎葉の無駄伸びなく省力型の理想の品種。

適作型	3~6月まき ハウス雨よけ栽培 主枝70~60% 1節当たり1~2本成 成り戻し強い 7~8月まき ハウス抑制栽培 主枝50~60% 1節当たり1~2本成 成り戻し強い
果長・とげ	100g果で20~21cm 大将-2はやや短い シーズン通して安定 トゲの大きさと数は中位
果形	首から尻まで良く整った円筒形で高温化でも尻太・尻コケ・曲果等、クズ果が極めて少ない
果色	濃いグリーンでツヤヤカさも抜群
果皮と果肉	果皮はうすく、滑らかで光沢良く、果肉しまりシャリッとしてうまい
主枝茎	太く節間短い
子づる・孫づる	太く節間中~短い、孫づるは短く省力的
草姿	いつもカラット生育し、受光体制が良い
葉	大きさ中位、やや角葉、濃緑で厚い
収穫量	早生で初期から末期迄通して多収となり枝が順序よくゆっくり発生し末期まで秀品となる
耐病性	葉が強く、褐斑病等各種病害に強い

栽培のポイント ——— 初期から成り込むのでしっかりと栽培する

●台木

最適な台木品種はエキサイト一輝かゆうゆう一輝（白タイプ）を使うとバランス良く生育しスタミナ抜群で穂木の能力を充分発揮させる。

●栽植本数

節成り、小葉の品種であるがあまり密植しない事がコツである。3.3㎡当たり半促成で5株、雨よけやハウス抑制で4.5株位である。

●育苗

鉢育苗では、床上はリンサンを含む腐植の多い良質床上を多目にする。定植時に鉢土にくずれのない程度に育苗日数をとる。

●元肥

量や質は一般に準じて良い。生育スピードの早い作型では生育の初期~中期のバランスの良い肥効がその後の草勢や品質、収量に影響するので必ず施用前に土壌検定によって施肥設計すると良い。

●追肥

通常早目が良い。通常10a当たりNで1kg位を夏期で7日位、春秋期で10日間位の間隔で施用する。

●灌水

定植2~3日前にタップリ灌水しておき定植日に土中水分の過不足のないように準備する。定植後、乾き易い抑制では定植苗の倍程の成育をするまでは日々多めの灌水をする。活着後は、各作型とも控え目にし徒長や旺盛に過ぎないように水による抑え作りをする。8~9月の紫外線の強い長日、高温の日中は土壌水分に加えて散水（通路散水や葉水）によって空中湿度を高めれば良い。

●整枝、摘葉

下位3~4節の枝の早目摘除、4~5節目から1節摘芯。孫枝はより短節間で雌花率も高まるので伸長具合、こみ具合により2~3節摘芯~半放任とする。摘葉は、収穫最盛期を過ぎる頃から古い日陰葉や込みすぎた部位を1回当たり1~2枚を限度として除くと良いが常に全体に亘り収穫果が見え隠れする程度に整える。

●夏期栽培では

アブラムシの飛来予防にハウス周りや天窓に寒冷紗を張るとバイラスに犯されない。
※但し、他品種と同様に7~9月の高温期(日中30℃以上夜間25℃以上)で主枝や下節位の子づる果の開花期の栄養生長期に天窓や側窓に寒冷紗を張りめぐらせて蜜蜂の飛来がないと果の肥大が充分でなく枯死果や形が乱れ易いことがあるのでその間だけ冬~春のイチゴのようにハウス内に蜂箱を入れるか全体の天窓の20~30%の部分寒冷紗を除いて天然の蜂が中に入るようにして授粉をさせると良い。主枝や下節位の子づるの雌花の授粉が済めばあとは蜂は不要となる。

●展張後

6ヶ月以上経過したビニール屋根は洗うと良い。



きゅうり・かぼちゃ・メロン育成元
株式会社 **埼玉原種育成会**
〒346-0105 埼玉県南埼玉郡菫蒲町大字新堀2616
TEL.0480(85)0854(代)
FAX.0480(85)0407



OS交配種子・発売元
株式会社シード

〒346-0105 埼玉県南埼玉郡菫蒲町大字新堀2616
TEL.0480(85)7211(代)